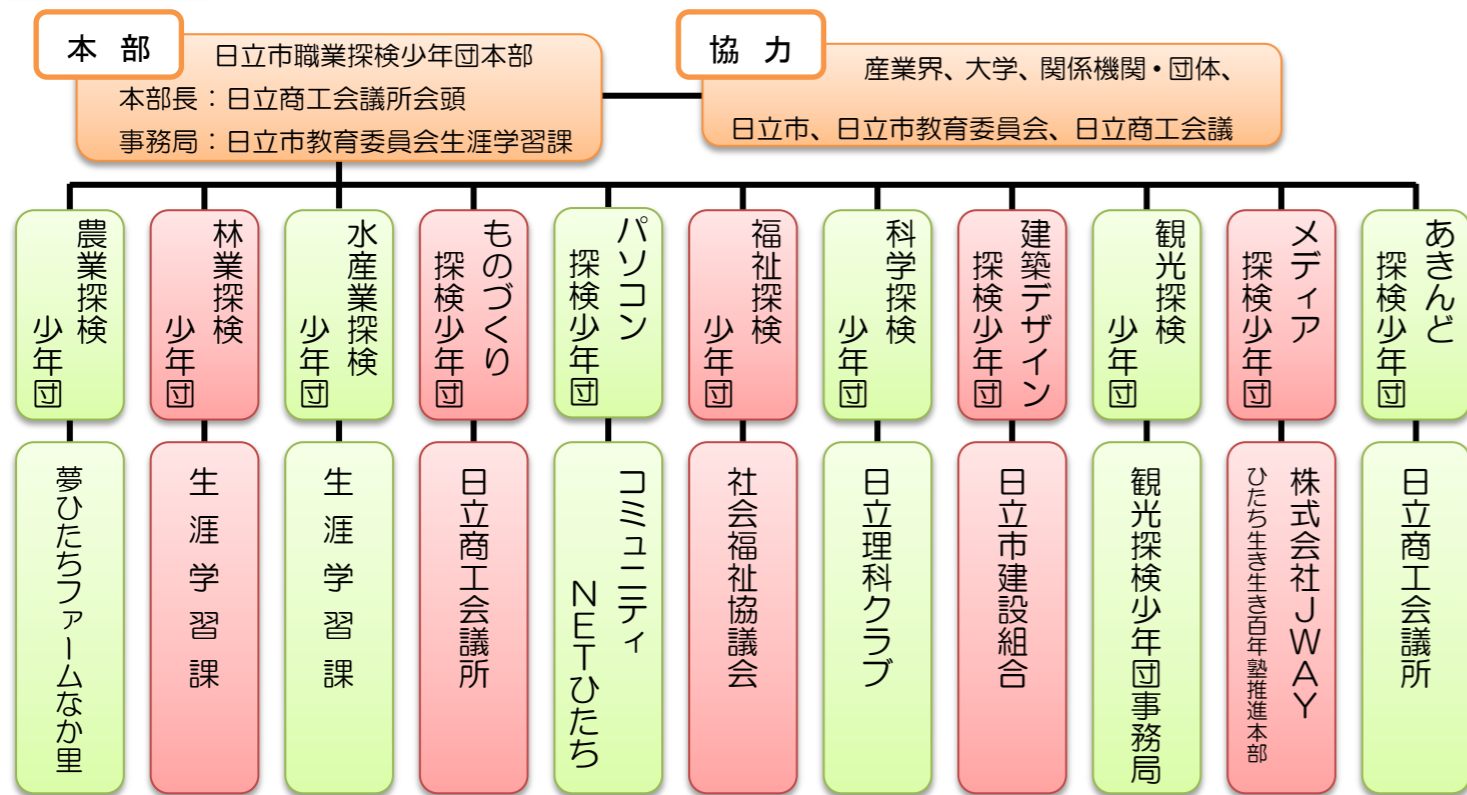


～10年のあゆみ～

- 平成17年11月 キャリア教育事業の実施に向けて、産業界・大学・関係機関・行政の代表者による準備会を開催。「職業探検(人材育成)少年団について」提案。
- 平成18年 2月 職業探検少年団の設立に向けて準備会議を開催。
- 平成18年 5月 日立商工会議所において、「日立市職業探検少年団本部設立会議」を開催。初代本部長 日立商工会議所 会頭 山本忠安氏 就任。
- 平成18年 7月 農、林、水産業、ものづくり、あきんど、IT、福祉7つの少年団・団員80人で活動開始。
- 平成18年10月 「全国生涯学習フェスティバル日立地区事業」に合わせ、多賀市民プラザにおいて発足式を開催。
- 平成19年 4月 エネルギー探検少年団を設立。
- 平成19年11月 キャリア教育優良文部科学大臣表彰を受賞。
- 平成20年 4月 建築デザイン、観光の2少年団を設立。
- 平成21年 4月 IT探検少年団が、パソコン探検少年団に名称変更。
- 平成22年 4月 エネルギー探検少年団が、科学探検少年団に名称を変更。
- 平成22年11月 第2代本部長 日立商工会議所 会頭 秋山光伯氏 就任。
- 平成23年 4月 メディア探検少年団を設立。現在11の少年団となる。
- 平成23年10月 建築家 妹島和世氏との懇談会を開催 団員4名参加。
- 平成27年 4月 設立10周年を迎える。

組織図



日立市職業探検少年団本部（事務局：日立市教育委員会生涯学習課）
 ホームページアドレス：http://www.cnet-hitachi.com/tanken/
 〒317-0064 日立市神峰町1-6-11（日立市教育プラザ内）
 電話 0294-23-9150 FAX 0294-22-0465
 E-mail gakushu@city.hitachi.lg.jp

日立市職業探検少年団本部

10周年 記念誌



農業探検少年団

副団長 成田 芳大

農業探検少年団員は、夢ひたちファームなか里の会員と一緒に、自然に恵まれた中里地区で、農作業（土を起こし、肥料を与え、種をまき、水やり、草取り、虫取り、作物の収穫、加工）を体験し、自分たちで作ったお米や野菜を調理し、みんなでおいしく食べながら活動しています。



また、田畑に生息する、カエル・ヘビ・蝶・トンボ・どじょう等自然の生き物を観察したり、川遊びや、夏の夜にはホテルを觀賞したり、田んぼにかかしを作ったり、繭玉祭りなどを体験します。

このような体験を通して、生物の営み、命の大切さ、食の大事さを教えながら活動していますが、この頃は高学年の団員が少なく、体験する期間が短期間のため、積極的に興味を抱いて動く団員の姿が少なく、おとなしい気がします。中里地区も少子化と農業従事者の高齢化により、耕作放棄地も増えていますが、団員の中から農業に興味を持ち、日本の農業を支える子どもが出るのを期待して、今後も食の大事さ、命の大切さを教えながら、また、元気な団員を育てながら少年団活動をしていきたいと思っています。

林業探検少年団

団長 南 卓夫

所属団体から推薦されて、ひたち林業探検少年団の指導員となって、早9年になります。この間、県林業指導所、赤羽緑地を守る会、助川山保全クラブなどの指導員8人と、各団体の多くの皆さんの応援を得て毎年20人前後の団員と活動しています。この間何事もなく活動できたことは何よりと思っています。

活動は、「森林を学ぼう、育てよう、楽しもう」をテーマに森の働きを理解するために、植林、下刈、間伐等の森づくりを体験したり、木材市場や木材加工工場の見学をしたり、巣箱づくり、昆虫探しと活動しています。体験活動では、保護者の参加も多く楽しく活動しています。

また、専用重機による伐採作業に、目を輝かす子どもや、下刈で汗を流しながら頑張る子どもたちを見ていると、子どもたちは、本来自然が大好きなのだと感じます。今後も、団員には、森の役割を理解し、自然が好きになることを願いながら応援・活動していきたいと思っています。



水産業探検少年団

指導員（元団員）大竹 真悟

私は、小学5年生から中学3年生までの5年間団員として活動に参加し、中学卒業後は指導員として後輩の育成にあたっています。団員から指導員として少年団に関わることで、様々な違いに気付きました。

楽しみながら様々な経験をしていた団員の頃とは違い、準備から片付け、そして、団員が安全に活動できるよう配慮する指導員の大変さが分かったとともに、改めて指導員に対して感謝の気持ちを持ちました。

私が指導員として参加していただけるのは、ひたちなか市にある茨城県立海洋高等学校がそこであり、その海洋高校を知ったのも、このひたち水産業探検少年団のお陰です。職業探検少年団という存在を知らなければ、今の自分もいないし、高校も普通高に通っていたと思います。

団員として5年、指導員として2年、これまでの活動とおして様々なことを知り、たくさんの指導員の方と話をし、将来自分がしたい事も明確になってきました。少年団に参加して、そして、指導員になって本当によかったと感じています。



ものづくり探検少年団

指導員 鍛冶工房 studio ZWEI 宇田 直人

日立市は、日本有数のモノづくりの街です。それを象徴するように、かみね公園の頂上には火と鍛冶屋の神 パルカン像があります。これは1986年に、「鉱山」と「鉄鋼業」で栄えたバーミングハム市（米国）から、同じく「鉱山」と「モノづくり」の町として発展した、日立市へ贈られたものです。

2002年にドイツから帰国した私は、日立市で鍛冶屋を開業しました。これも何かの縁かもしれません。2007年から少年団に参加し、銅板を用いたワークショップを指導しています。ハンマーを初めて握る子、手にマメを作る子、銅板の変化する様相に驚く子様々ですが、私が初めて金属を触り、物を作り始めたころも同じでした。初年度に参加された方の中には、高校生又は、成人している方もいらっしゃるかもしれません。自らの手で物を作り上げるというこの体験が、彼等にとって、経験や思い出、知識の一つになってくれればうれしく思います。モノづくりの歴史は長い長いリレーのようなものです。この取り組みも、長く世代を超えて続けてほしいと期待しております。



パソコン探検少年団

副団長 星川 雄

実生活で不可欠となっているパソコンの基礎知識学習、ホームページ作りやパソコンの解体組立体験、IT関連企業の生産活動の見学などを通して、実社会での情報処理活用の重要性に興味を持ってもらい、将来IT関連企業で活躍できる人材に育ってもらうことを願って活動しています。活動の締めくくりとして、情報検定（J検）「情報活用3級」にチャレンジしてもらっています。

ゲームに夢中の団員が、活動を通じて「ゲームを楽しむだけでなく、ゲームのプログラムを作れるようになりたい」とか、IT関連企業を見学して、最新鋭の生産設備に感銘を受け、「自分の知っている人が、素敵な場所で働いているのが良く分かった」などの感想を聞くと、「パソコン探検少年団」活動が団員たちの将来にも、良い経験になっていることを実感します。

最後の「情報活用試験」チャレンジは小・中学生には難しいレベルですが、合否より「挑戦することの大切さ」を実感することに重点を置いています。これからも、子どもたちのキャリア教育に貢献できるように、取り組んでいきたいと思っています。



福祉探検少年団

事務局 佐藤ゆう子

ひたち福祉探検少年団が結団され早いもので10周年を迎えました。当初は中学生を対象に介護ヘルパーの資格取得を兼ねて実施していました。介護事業所での体験活動などでは、団員が互いに励まし合い熱心に取り組んでいた姿が今でも思い出されます。130人を超える団員がヘルパーの資格を取得しましたが、すでに社会人となり、福祉や介護の仕事に就いて活躍されている方も多いのではないでしょうか。

3年ほど前からは、小学生も対象に加え、介護ばかりでなく福祉全般を学ぶ内容に衣替えし、子育て支援や救急救命の体験なども行っています。続けて参加してくれる団員もおりうれしく感じています。団員からは「将来はお年寄りや障がいのある方を支援する仕事をしたい」「学校や地域で何か役に立つことをしたい」という感想が多く聞かれます。「福祉」を体験学ぶことは、まわりの様々なことに目を向けて、思いやりを持ち、家族や友人ばかりでなく地域の方々と助け合うことの大切さを学ぶこともかもしれません。ひとりでも多くの小中学生に、福祉の心を育む体験の場を提供できるよう、今後も努めていきたいと思っています。



～ 10周年を迎えて ～

日立市職業探検少年団本部 本部長 秋山 光伯

平成18年5月に設立した日立市職業探検少年団も10周年を迎えることになりました。その間、各少年団に携わっております、関係機関、団体及び産業界の皆様には多大なご支援、ご協力をいただき心より感謝いたします。

この少年団は、小・中学生の職業観、勤労観を育むキャリア教育の一環として、専門的な知識や経験を持つ専門家、産業界の方々の指導のもと、子どもたちに各種の職業を体験し、働くことの楽しさや自ら考えることの大切さを実感できる学習の機会を設けることを目的として平成18年に設立いたしました。

初年度は、7つの少年団80人でスタートし、その後、新たな少年団が設立され現在11の少年団になり、この10年間で1,200人以上の団員が活動に参加いたしました。

この少年団活動の中で、様々な職業の体験をきっかけとして、自らの将来の夢を見つけ、その夢に向かって進んでいる団員もたくさんおり、大変うれしく感じているところです。

これからも、子どもたちが働くことの大切さや楽しさを学べる少年団として、取り組んでいきたいと思っています。最後になりましたが、日立市職業探検少年団の事業運営にご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げ、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願いし、挨拶とさせていただきます。



科学探検少年団

指導員 小佐野 勝春

平成19年から職業探検少年団活動に参加し、「エネルギー探検少年団」として活動を始めました。私たちの生活を支えているエネルギーを主題に科学を学ぼうとの趣旨で始め、対象を小学5年生から中学3年生までとしました。しかし、中学生の参加は休日の部活動のために難しく、小学生が主体となることが分かってきました。

平成21年5月に日立理科クラブが発足したことを機会に、名称を「科学探検少年団」と変更し、対象も小学4年生から6年生と変更しました。活動内容には変化はありませんが、小学校の高学年を対象に絞り5月から毎月1回の活動を続けています。

夏休み、冬休みを利用し見学会を行います。市内企業の協力をいただき、実機を間近に見る機会となっています。この見学といろいろな実験を通して参加した子どもたちが科学に興味を持ち、ますます科学を勉強してみようと思うようになってほしいと願って活動しています。



建築デザイン探検少年

指導員 山田 俊

「子どもたちに、いろいろな職業を体験させ、大きく成長させたいので、ぜひ、一緒にやってくれないか」と、当時の教育委員会の課長から話があり、その熱意に促され、活動を始めて8年目に入りました。始めた頃は、子どもたちにどう接すればいいのか悩み続けたが、活動開始から、3年ぐらいい経って、子どもたちの柔軟性・多様性を考えると、そのことに応えてやることにできると思うようになりました。

建築は、形の無い物を目に見える形で作りあげることが仕事であり、活動の中で、その喜び、楽しさを十分伝えてあげることができてきました。なぜなら、その経験をすることによって、建築業に興味を持ち、後継者になってくれればとの思いからです。3年目に建築に進む団員が出るのが現実となった時の喜びは忘れることができません。建築デザイン少年団が無ければ、その団員は、自分の進むべき道を見つかることができなかつたかもしれないと思うと、団員のキャリア教育に役立つことにうれしく思います。教えることばかりでなく、子どもたちからも教えられることがたくさんあります。これからも、活動を通して、子どもたちの成長に貢献できるように頑張りたいと考えております。



観光探検少年団

指導員 小澤 聡子

職業探検少年団が発足して10年。そこで観光探検少年団の第1回目の活動の団員の感想を振り返って読んでみました。

『わたしは第1回目の観光探検少年団の活動に参加して改めて日立の観光スポットの多さに驚きました。その中で特にかみね動物園ではゾウや、キリン、山羊に餌をあげることができて動物とのふれあいを体験しました。また、動物園の園舎の裏側に回ることができ、動物園の飼育員さんたちの仕事について知ることができてうれしく感動しました。それから「鶴捕り」の現場を見ることができて貴重な体験をしました。鶴捕り場は、断崖絶壁の高い場所で「鶴」の捕獲方法も知りとても驚きました。このほか、日立市の住んでいても、知らない「観光スポット」を知ることができ観光少年団に入ってよかったと思いました。』

最初、観光とは何か、何を活動すべきか分からない中で、団員たちに満足のいく活動を指導していけるのか不安の中でスタートしたことを今でも鮮明に覚えております。これまでの感想を聞き、団員たちの新しい発見や体験に少しでも貢献できたことをうれしく思います。これからも、団員の感想を活動計画のヒントにし活動していきたいと思っています。



メディア探検少年団

指導員 黒沢 秀子

平成23年に発足したメディア探検少年団は、日常接する様々なメディアについて学びながら、取材を通して自分の言葉で人に伝える力を養っていきます。

団員の子どもたちは、日立のまちや人、他の少年団の活動などを見学・取材することで新たな発見をし、物事をしっかり考えることや人に接するマナーも身に付いていきます。活動拠点がケーブルテレビJWAYであることから、スタジオ体験や本物の取材体験ができることも大きな魅力のようです。

書くことが得意な子はさらに力を伸ばし、また、作文が苦手な子がすばらしい記事を書くようになったり、人前で話することを恥ずかしがっていた子が積極的にインタビューができるようになっていく姿を見ることは指導員にとってこの上ない喜びです。豊かな体験は子どもたちのあらゆる可能性を引き出し未来を照らすことを日々実感しています。



あきんど探検少年団

指導員 谷中 信一

ひたちあきんど探検少年団は、「商い」を学ぶ少年団として発足いたしました。一時期、団員数減少の為、活動休止状態となったこともありましたが、3年前に関係者からの要望に応え「新装開店」の気持ちで活動を再開させていただきました。

机上の学習では、商売の面白さが伝わりにくいと思い、体験型に方向転換してからは、徐々に団員数も増え、現在は定員を満了すまでとなりました。今年は、9割が女子団員かつ、半分が一人参加のやる気のある児童が集まりました。

今回も不安いっぱいスタートでしたが、「商売」というテーマをもとに、団員全員で商店街の散策をしたり、商品陳列から値札付等の販売補助体験をしたりと一生懸命頑張っている姿を見ると、指導者側も我が子のように一喜一憂する場面に遭遇し、毎回、清々しい気持ちで指導に当たっております。将来、団員の中から一人でも多く商業に携わることができればと思います。

